

# ICTを効果的に活用した指導方法の工夫及び改善



さいたま市立浦和中学校

〒330-0073 さいたま市浦和区元町1-28-17  
TEL 048(886)8008 FAX 048(886)8555  
<http://www.m-urawa.ed.jp>



さいたま市教育委員会  
教育長 稲葉 康久

さいたま市立浦和中学校が、平成24・25年度の2年間にわたり、さいたま市教育委員会委嘱による「教育の情報化」の研究指定校として、全校をあげて研究に取り組み、ここにその成果を発表されますことに敬意を表するとともに、心よりお喜びを申し上げます。

浦和中学校では、研究主題を「ICTを効果的に活用した指導方法の工夫及び改善」として、全教科での授業実践を中心に、教育活動全体で研究を推進されました。

研究の特色としては、教科の特性に応じて、生徒の表現力を伸ばすプレゼンテーション部会と、生徒同士が教え合い学び合いながらお互いに高め合う協働学習部会を設け、教科の枠を超えて教職員がICT活用指導力の向上に努めたことが挙げられます。この成果として、生徒が主体的に学習に取り組み、情報活用の実践力がより高まったと伺っております。

浦和中学校の研究は、さいたま市教育委員会が推進している「確かな学力」の向上を図ることを目標とした「学びの向上さいたまプラン」の具現化を図る大変意義ある取組であると捉えています。各学校におかれましては、本研究の成果を自校の状況に応じて生かし、教育活動の一層の充実に努めていただきますようお願いいたします。

結びに、本研究に積極的に取り組んでこられました鶴巻一郎校長先生をはじめとする教職員の皆様、本研究を御支援くださいました保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げ、あいさついたします。



さいたま市立浦和中学校  
校長 鶴巻 一郎

平成24・25年度さいたま市教育委員会より、「教育の情報化」の研究指定を受け、「ICTを効果的に活用した指導方法の工夫及び改善」を研究主題に掲げ、実践研究に取り組んでまいりました。

本校は、併設型の中高一貫校として、平成19年度に開校以来、生徒にPCが一人1台貸与されるなど、ICT機器の充実した環境のもと、情報リテラシーの学習を進めてきました。このような中で、ICT活用の効果を高めるために校内研修を積み重ね、校内授業研究会を実施しました。また、プレゼンテーション部会と協働学習部会に分かれ、「分かる授業・魅力ある授業」の充実を図りました。

これらの取り組みの結果、全教員がICT機器の操作に習熟するだけでなく、日常的に授業で活用するようになりました。また、お互いのコミュニケーションを高めるICTツールを活用することで、授業に集中して取り組み、学習に対する積極性や意欲、学習の達成感などの効果を高めることができました。今後も、ICT活用が生徒の情報活用能力や学力を高めるための研修を継続していきたいと考えております。

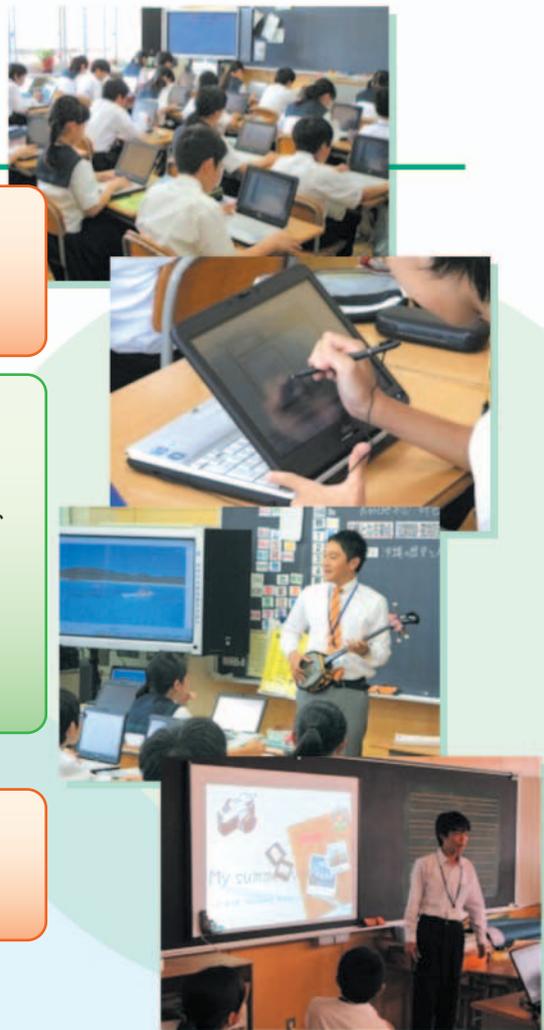
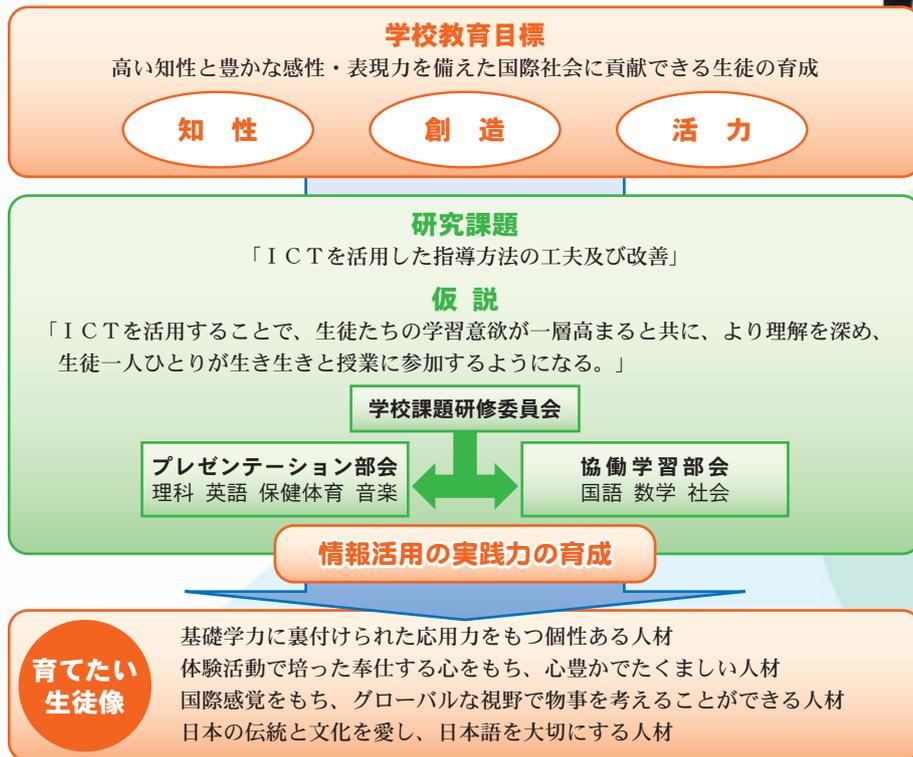
最後になりましたが、これまで本校の研究を指導していただきましたさいたま市教育委員会の指導主事の先生方、また、本校の教育活動を支えていただいております保護者、地域の皆様に感謝申し上げ、あいさつとします。

## 1 主題設定の理由

本校は、開校以来全校生徒240名全員にPCを貸与し、生徒達は授業などでいつでも使用出来る環境にある。生徒はPCを活用し、本校の特色であるMSU (Morning Skill Up Unit) で国語、数学、英語のeラーニングを、各自のペースで進め、また、全教科全領域でPCを活用した授業を展開している。そして、校内無線LANが設置されているため、生徒はPCを必要とする場所に移動し、校内各所から校内サーバーやインターネットに接続して、必要な情報を活用することができる。そこで、本校のICT環境の特徴を生かし、21世紀にふさわしい学びの創造を目指し、さらに「分かる授業・魅力ある授業」の充実を図り、情報活用の実践力を育成することが必要であると考えた。



## 2 研究の全体構想



## 3 研究の視点

「ICTを授業に取り入れるメリット」、「ICTがあるからこそ教育的効果がある」、「提示の方法」等を授業に取り入れ、ICTによる活用の必要性を示す。そこで、「**プレゼンテーション部会**」では、様々なICT機器をより効果的に活用するための方策を研究し、授業実践を行う。「**協働学習部会**」では、「ICT機材を活用した協働学習」をテーマに、生徒同士の学び合いを一層活性化させるための方策を研究し、授業実践を行う。

## 4 研究の主な取組

- (1) ICT活用の研修
  - 外部講師によるICT機材の活用方法の研修会 (H24は5回、H25は3回)
  - 校内授業研究会
- (2) 授業実践での取組
  - 年間計画を見直し、ICTの位置付け
  - 全教科で活用実践集の作成
- (3) 各部会での取組
  - プレゼンテーション部会では伝え分かりやすい表現方法の検討
  - 協働学習部会では生徒同士が教え合うための表現方法の検討

**第1学年 英語 “Morning Skill Up Unit”**  
生徒個人パソコンを適用した、習に即した英語学習指導

<p>1 単元名 “Morning Skill Up Unit” (証明)</p> <p>2 適用機材 実用型PC (週5日 10分程度) 既習者以外集中の学習環境</p> <p>3 適用のねらい ○応用実用技能とは別に、週5回約20分程度で各自のPCから実用学習サイトに接続し、サイトの操作に慣れ、単語や文法の基礎、基礎知識、基礎知識に取り組み、生徒それぞれの学習状況に合わせ、全てサーバーに接続されていく。 ○1学期の証明学習の認識を固めるため、既習者集中の学習環境として、各自のPCから実用学習サイトに接続して、学校での学習を継続出来るようにした。</p>	 <p style="text-align: center; font-size: small;">生徒全員が個人PCとヘッドセットを使用した英語学習</p>
<p>4 適用のポイント 1-1 各自のペースでの学習</p> 	<p>○学習サイトは、レベル別カリキュラム (教科書とは別) となっており、さらに生徒それぞれのPCから各自の画でアクセスしているため、各自のペースで学習を進めることが出来るようになる。</p> <p>○実用型PCと少人数授業、併用によってはICTが効果的であり、既習者に対する生徒の理解に合わせた対応出来るようになる。</p> <p>○全員がヘッドセットを使用しているため、まわりに声を聴くことなく各自で学習出来る。</p> <p>○学習を進める上で必要な場合は、入学時に一括購入した実用型PC (高校生レベルまで対応) を複数台に接続するように設置して、無事に学習が進めるように指導している。</p> <p>○学習環境はスモールステップになっており、無理なく学習が進められるようになっている。既習者にとりまわりの学習は、ゼンツの音声も応用型だけ取り出し聞くことが出来、また答えを聞くためのヒントも画面に提示されるため、実用型PCによる学習状況確認の際は、全員が同じ問題を解くことを求めず、各自の進度の学習環境を設けて対応している。</p>
<p>1-2 必要補充環境の整備</p> 	<p>○実用型PCを併用している生徒は、他の環境に既習者なく、既習者自身の環境に合わせるようになっている。実用型PCによる学習状況確認の際は、全員が同じ問題を解くことを求めず、各自の進度の学習環境を設けて対応している。</p>
<p>5 成果と課題 ロー一人が自分のペースで自分の理解とする学習を行うことで、全員にevidenceの成果が見られた。また、取り出し遅延せず学ぶことが出来る生徒には、問題を既習者で学習出来た。今後は、PCを音声した学習環境が出来れば更に設定すべく検討し、検討したい。</p>	

